

「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」の実施報告とアンケート結果に基づく今後の展望

福屋利信

要旨

山口大学の更なる国際化の推進には、日本での就職を希望する外国人留学生への支援体制の構築は緊急課題である。そのために留学生センターでは、「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」と題した就職説明会を2009年度に2回開催した。ここにその実施報告を行なう。

キーワード

山口大学の国際化、留学生就職支援、留学生就職支援フェスタ・イン・山口

1 「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」を開催するに至った背景

文部科学省は、「留学生30万人計画」を推進するための重要項目として、以下の5項目を挙げている。

1. 日本留学への誘い（日本留学への動機づけと留学相談強化）
2. 入試・入学・入国の入り口の改善
3. 大学のグローバル化の推進
4. 留学生の受入れ環境づくり
5. 卒業・修了後の社会の受入れ推進

（「留学生交流計画と大学のグローバル化」江崎典宏・文部科学省高等教育局より抜粋）

経済産業省は、「我が国企業における人材国際化の重要性」を強調し、以下の2項目を緊急課題として挙げている。

1. 海外マーケット拡大のためには、現地のニーズを熟知した優秀な人材の獲得、活用が必要。
2. さらに、優秀な人材を国籍を問わず活用するグローバルな人材活用も視野に入れることが重要。

（「経済産業省における外国人留学生の受入れに関する取組について」経済産業省経

済産業政策局・産業人材政策室より抜粋）

法務省は、留学生の「卒業後の就職活動期間」に関しては、現行の180日の滞在期間について一定の成果が認められることから、教育機関が卒業後も継続して就職支援を行うことを前提に、卒業後の就職活動期間を1年程度に延長すべき」と提言した（「留学生及び就学生の受入れに関する提言」出入国管理政策懇談会より抜粋）。そして平成21年4月から、留学生の卒業後の就職活動期間を最長1年に伸長する決定がなされた。

厚生労働省は、留学生の就職活動にも、日本人学生と同等のインターンシップ制度の活用が不可欠として、留学生、企業双方の意識改革を提唱している。

山口大学では、ここで言及されている留学生の入り口の部分、あるいは大学の国際化については、全学的な国際化構想の中で国際戦略室、留学生センターを中心に組み組みを行ってきた。しかし、留学生の出口、言い換えれば日本社会の受入れの部分に関しては、これまで実質的な取り組みが成されてこなかった。

現在日本の大学に在籍する留学生数は約12万人であり、そのうち約6割の留学生が卒

業後日本企業で働きたいと希望している。しかし、日本企業に就職できた留学生数（就学ビザから就労ビザに切り替えた留学生数）は平成20年で約1万人である。

首都圏の大学で学ぶ留学生は、日本学生支援機構（JASSO）や国際留学生協会（IFSA）をはじめとする諸機関が主催する外国人留学生に特化した就職説明会やフォーラムに参加しやすい状況にあり、そういった機会に情報収集が可能である。しかし、地方の大学で学ぶ留学生は、そういう機会があることを知っていても、高い交通費、宿泊費が障害となつて、参加を断念することが多い。したがって、日本企業への就職に関しては、首都圏の留学生のほうが地方の留学生より圧倒的に有利な状況にある。

政府レベルの掲げる指針と地方の大学で学ぶ留学生の現状とのギャップを少しでも縮める意味においても、そして何より、卒業後日本企業で働くことを望む山口大学留学生に一人でも多く希望を叶えてもらうためにも、山口大学が独自に企画する留学生就職説明会の開催が望まれていた。こうした背景から、「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」を計画するに至った。

2 「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」の目的

1. 山口県内の高等教育機関に学ぶ外国人留学生に日本企業の特徴を伝え、彼らが就職活動を展開する際の「就活力」向上を目指す。
2. 山口県内の高等教育機関に学ぶ外国人留学生の日本での就労意欲を日本企業に認識してもらう。
3. 山口県内の高等教育機関に学ぶ外国人留学生の日本企業への就職を支援する。
4. 山口県内の高等教育機関に学ぶ外国人留学生の就職支援活動において、山口

大学が地域の基幹大学としての責務を果す。

3 「第1回留学生就職支援フェスタ・イン・山口」

平成21年8月11日（火）、西日本の大学としては初の留学生に特化した就職説明会「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」を山口大学・大学会館で開催した。山口県内の高等教育機関に学ぶ外国人留学生103名が参加した。参加者の内訳は、山口大学70名、徳山大学20名、山口県立大学10名、宇部フロンティア大学3名。大学及び企業関係者を含めた参加者総数は125名であった。

最初に、東洋鋼鈑(株)の王海彬さん（2007年度大学院経済学研究科修了）が日本企業で働く元留学生としての体験をスピーチした。続いて、宇部興産(株)、(株)トクヤマ、東ソー(株)、山口井筒屋、東洋鋼鈑(株)から、各社の海外進出や外国人雇用実績についてのプレゼンテーションがあり、山口県経営者協会からは、インターンシップについての説明が行われた。

休憩時間には、山口出身の二胡奏者小野美紀さんが、アジアやロシアの曲を演奏し、国際交流の雰囲気盛り上げた。

午後からは、参加企業・団体と参加留学生との間で個別相談が行われた。ここでは、日本企業への就職を強く希望する留学生たちが熱心に質問・相談を行なった。企業・団体側も、留学生に対して分かりやすい表現で誠実に対応した。

* 「第1回留学生就職支援フェスタ・イン・山口」では、山口大学工学部機械工学科の留学生3名が参加企業から内定を獲得した。



王 海彬さん



企業のプレゼンテーション



参加した留学生たち



個別面談

4 「第2回留学生就職支援フェスタ・イン・山口」



第2回 留学生就職支援
フェスタ
イン・山口

The Job Hunting Meeting
Specialized in *****
International Students
in Yamaguchi *****

平成21年12月25日（金曜日）
午前10時～午後4時
会場：山口大学・大学会館

《参加企業及び団体》
Panasonic、東洋鋼鋳
中国NBC、アジア人財資金構想



J-POPライブ：水本諭

主催：山口大学留学生センター
後援：山口大学産学公連携・イノベーション機構
山口大学就職支援室、大学コンソーシアムやまぐち

《問い合わせ先》
山口大学留学生支援室：083-933-5979
山口大学福屋研究室：083-933-5048
<http://www1.fukuya.net> (click ISC)

モデルに山口大学の留学生を起用し、大変好評を博したポスター

平成21年12月25日（金）、山口大学・大学会館において、「第2回留学生就職支援フェスタ・イン・山口」を開催した。第1回のフェスタにおいて3名の就職内定者を出したことが追い風となり、参加者総数は130名に及んだ。参加者の内訳は、山口大学45名、徳山大学30名、宇部フロンティア大学8名、山口県立大学3名、徳山総合ビジネス専門学校3名、大学及び企業関係者41名であった。

第一部では、東洋鋼鈹株式会社、パナソニック株式会社、社団法人中国NBCより、海外への事業展開や留学生の雇用状況についてのプレゼンテーションがあった。

休憩時間には、防府市出身のシンガーソングライターで、平成22年秋に公開予定の映画で主題歌を担当することが決定している水本諭が彩を添えた。

第二部は、参加留学生と参加企業との個別面談に移り、そこでは積極的なアピールや意欲的な質問が飛び交った。

個別面談と並行して、「アジア人財資金構想」プロジェクトサポートセンターの横山隆俊氏を招いて、大学関係者と企業関係者が集い、留学生就職支援についての意見交換会が行なわれた。山口大学関係者11名、山口県内の高等教育機関の就職支援担当者9名、企業関係者6名が集い、活発な意見交換がなされた。

5 「アジア人財資金構想」との意見交換会参加者リスト

全体説明:

アジア人財資金構想プロジェクトサポートセンター・横山隆俊プロジェクトリーダー



企業のプレゼンテーション



意見交換会



参加した留学生たち



個別面談

大学・高専・専門学校関係者

徳山高専 小川仁志 一般科准教授
 徳山大学 市川 整 経済学部教授
 宇部フロンティア大学
 渡邊俊文 就職支援室次長
 放送大学 緒方徹朗 山口学習センター
 山口県立大学
 櫻谷宗生 キャリアサポートセンター所長
 下関市立大学
 上野恵美 キャリアセンター長
 梅光学院大学
 安富俊雄 キャリア支援センター長
 徳山総合ビジネス専門学校
 景山秀美 校長
 趙 維 生活指導担当

企業関係者

山口県経営者協会 吉岡 宏 事務局長
 小西照彦 インターンシップ担当
 東洋鋼板株式会社
 河田浩志 総務人事部人事グループ
 上野宗章 総務人事部人事グループ
 社団法人・中国NBC
 林 義之 常務理事
 平野孝一 プロジェクトリーダー

山口大学関係者

小嶋直哉 大学教育機構長
 吉田一成 国際・社会連携担当学長
 特別補佐
 エムデ・フランチ
 留学生センター長
 澤田敏行 学生支援部長
 今津 武 国際戦略室副室長
 浜本俊一 産学公連携イノベーション
 推進機構
 林 修 産学連携コーディネイター

渡邊早苗 留学生支援室長
 土田 誠 大学コンソーシアム
 やまぐち事務局
 寺西 智 国際・社会連携チームチーフ
 福屋利信 留学生センター (司会)

6 意見交換会での説明・意見・質問及び回答
 「アジア人財資金構想」の全体説明

プロジェクトを立ち上げて3年間の活動の結果、企業活動に必要な日本語に特化した日本語教育を、プロジェクト加盟大学の協力のもとに実施し、ほぼ100%に近い就職内定率を達成した。今後は、このサービスのE-learning 化を図りたい。

また、どのようなスキルを持った留学生がどこの大学に存在し、どの企業がどんなスキルを持った留学生を必要としているかに関する情報のマッチングを全国規模で行なう体制を構築したい。

「意見・質問」()内はそれに対する回答

- ・「アジア人財資金構想」が提供する留学生の就職支援のための情報を得るためには、大学側はどのくらいの費用を負担しなければならないのか?
 (アジア人財資金構想：データベースの閲覧料として、年間5万円程度の料金設定をする予定。)
- ・今回のフェスタで、放送大学が、参加留学生の日本での就職に関するアンケート調査を実施したが、調査結果を共有できないか?
 (放送大学：大学コンソーシアムやまぐちに参画している大学で要請のあった大学には調査結果を知らせる。)
- ・インターンシップをサポートして欲しい。日本人に伍して留学生も参加できないか?

(山口県経営者協会：日本企業に長期間働きたいという熱意のある留学生なら受け入れ可能。)

(中国NBC：留学生のインターンシップ報告会を企画して、日本独自のシステムであるインターンシップへの理解度向上を図る。)

- ・今回のような就職支援フェスタの費用はどこから出ているのか？

(山口大学：学長裁量経費などの競争的資金を充てている。)

(大学コンソーシアムやまぐち：資金援助をしている。)

- ・来年度開講予定の「留学生のための日本企業文化理解」は、山口大学の留学生のみが参加できるのか？

(山口大学：大学コンソーシアムやまぐちに参画している大学の留学生には聴講を認める方針。)

- ・「留学生のための日本企業文化理解」のE-learning化は出来ないか？

(山口大学：現在、来年度の授業開設にむけて準備中ゆえに、来年度の授業の様子を見て、必要ならば検討したい。)

- ・企業と大学が提携して、優秀な留学生を獲得に乗り出せないか？

(アジア人財資金構想：すでにパナソニックと京都大学が提携して、留学生の獲得に乗り出している。)

(山口大学：山口大学としても実現性を検討したい。)

山口大学からの総括的コメント

山口大学留学生センターは、「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」と「留学生のための日本企業文化理解」講座とを二本柱に据え、大学コンソーシアムやまぐちと連携して、留学生の就職支援に関して、地域の基幹大学としての責務を果たして行きたい。

そのためには、今回意見交換会に参加いただいた他大学の留学生支援に携わる関係者及び企業の人事担当者の方々の協力が不可欠となるので、今後さらなるサポートをお願いしたい。

7 「第2回留学生就職支援フェスタ・イン・山口」におけるアンケート調査結果

*本調査は、放送大学大学院修士課程・緒方徹朗（指導教員：原田順子准教授）の研究資料収集のため、山口大学留学生センターの協力のもと、「第2回留学生就職支援フェスタ・イン・山口」に参加した留学生を対象に行われた。本実施報告への転載は、調査者及び指導教員の許可を得ている。

【経緯】

近年、日本の大学を卒業後に日本での就職を希望する留学生が増え、また留学生の雇用を促進する企業も増えてきている。本調査は山口県内大学の留学生の日本での就職（海外勤務も含む）について、その現状と問題点を調べることを目的に実施した。

【調査対象および方法】

調査対象は、「第2回留学生就職支援フェスタ・イン・山口」（平成21年12月25日開催）に参加の山口県内大学の留学生89人。当日受付にて調査票を配布し、当日回収した。これに先立ち宇部留学生交流会忘年会（平成21年12月5日開催）で実施した同様のアンケート調査にて、上記フェスタに参加予定と回答した5人分も加えている。

総回収数は48人、うち有効回答数は48人（有効回収率53.9%）。

【調査結果の概要】

大学別では山口大学と徳山大学が41.7%で同数であった。徳山大学は1年生の参加者が多

く、全体でも日本での滞在年数が1年未満の者が半数近くであった。

日本語能力についてはBJTビジネス日本語能力テストを回答した者はいなかった。

日本で就職したい理由としては、半数以上が「日本のビジネス文化を学びたい」と回答し、「日本が好きだから」、「日本で暮らしたいから」という者も3割前後いた。

就職の情報は、インターネットの他に、学内施設（就職支援室・各学部事務室）を利用している者が6割以上であった。

就職先については、規模はこだわらない者が大多数、勤務地としては地方（山口県）を希望する者が4割、就労期間は5年以上が6割と、現実的あるいは安定志向と思える傾向であった。また、半数が就職先と出身国とのつながりを重視している。

日本で働く場合に、日本語や日本語以外の語学は自分の弱みよりも強みと捉えている者が多い。また、「異文化を理解できること」や「コミュニケーション能力」「行動力」「意志・精神力」を自分の強みとしていながら、「日本のビジネス文化」については不安を感じている。

自由記述の質問への回答も多かった。日本での就職について留学前には考えなかったが留学後に希望するようになったとの回答が多い。しかし実際の就職活動を始めてその難しさを具体的に認識している。留学生が希望するのは、企業の求人情報、ビジネス日本語や日本のビジネス文化を学ぶ機会、そして地方での説明会やセミナー、面接の利便性である。これらについて、大学内での機会の提供が期待されると思われる。

今後は県内の大学別・地域別の調査の実施や経産省等の全国的な調査結果との比較により、山口県内留学生の特徴について評価するとともに、現状に即した留学生就職支援について検討したい。

【調査項目】 ※各質問の選択肢については末尾の調査票を参照

基礎項目

学校名、年齢、性別、出身国、在学段階、専攻、学費（奨学金）、日本での滞在年数、日本語能力（資格）、母国での就労経験

日本での就職に関する質問項目

問1. 日本で就職したい理由は？

（複数回答可）

問2. これまでにどのような就職活動をしましたか？（複数回答可）

問3. 就職の情報は何かから得ていますか？

（主なもの3つ）

問4. 希望する業種は？（複数回答可）

問5. 希望する職種は？（複数回答可）

問6. 希望する就職先の規模は？

問7. 希望する勤務地は？（複数回答可）

問8. 希望する就労期間は？

問9. 就職先と海外とのつながりを重視しますか？（複数回答可）

問10. 就職先ですでに外国人が雇用されていることを重視しますか？

問11. 日本で働く場合に自分の強みは何ですか？（複数回答可）

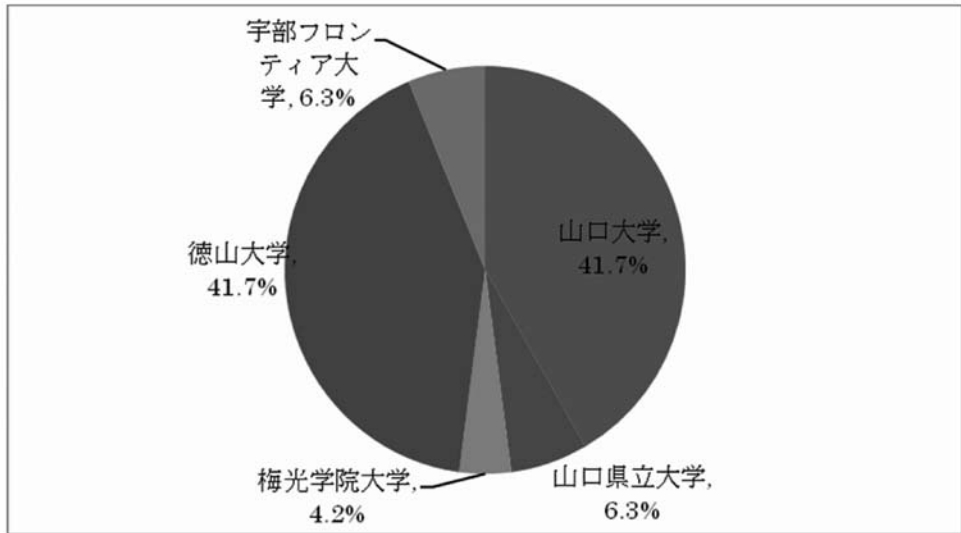
問12. 日本で働く場合に不安なことは何ですか？（複数回答可）

問13. 日本での就職について留学前と留学後でどのように考えが変わりましたか？

問14. 日本での就職について就職活動前と現在でどのように考えが変わりましたか？

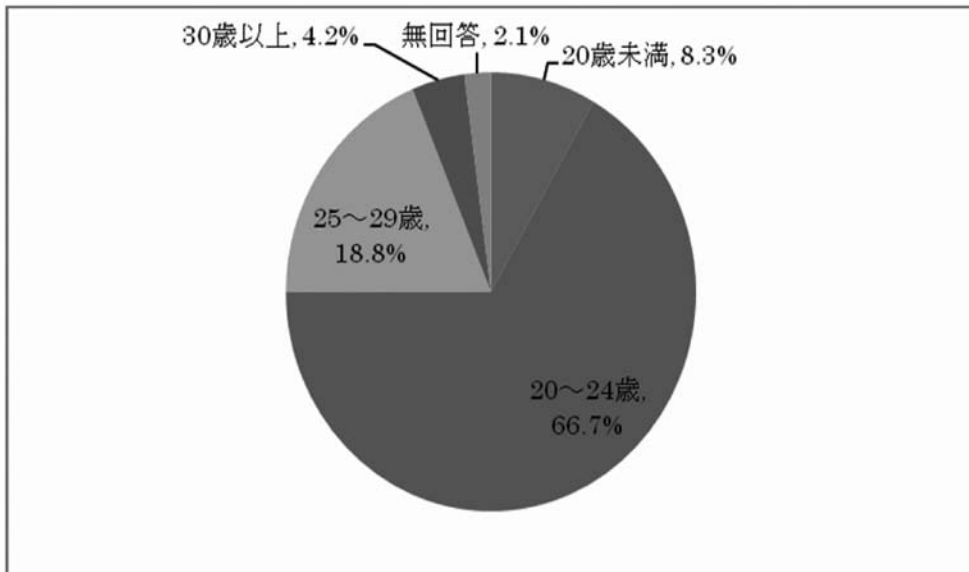
問15. 留学生の就職について日本の大学、企業、社会への要望を記述してください。

基礎項目の調査結果



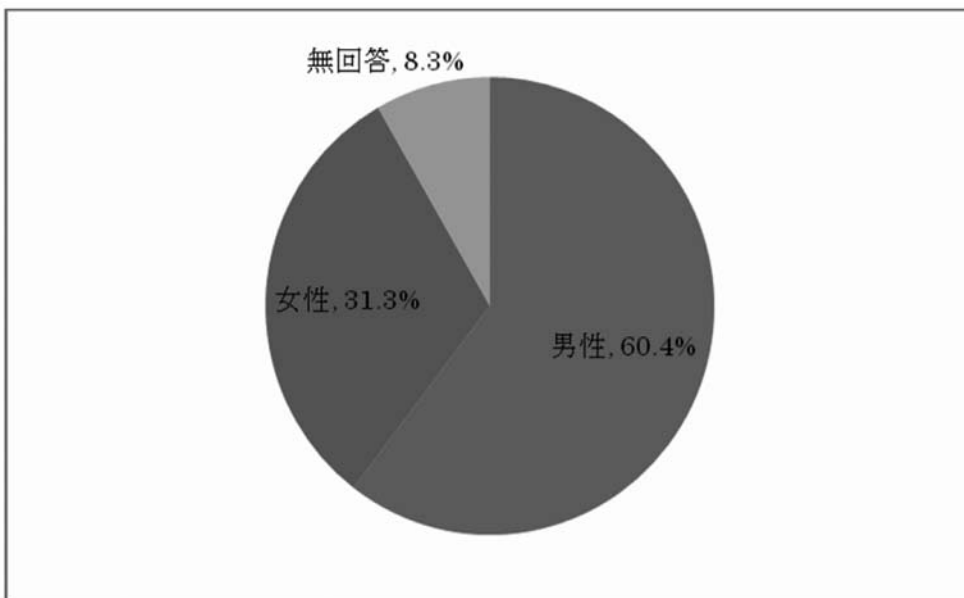
N=48

図1 調査対象者の学校名



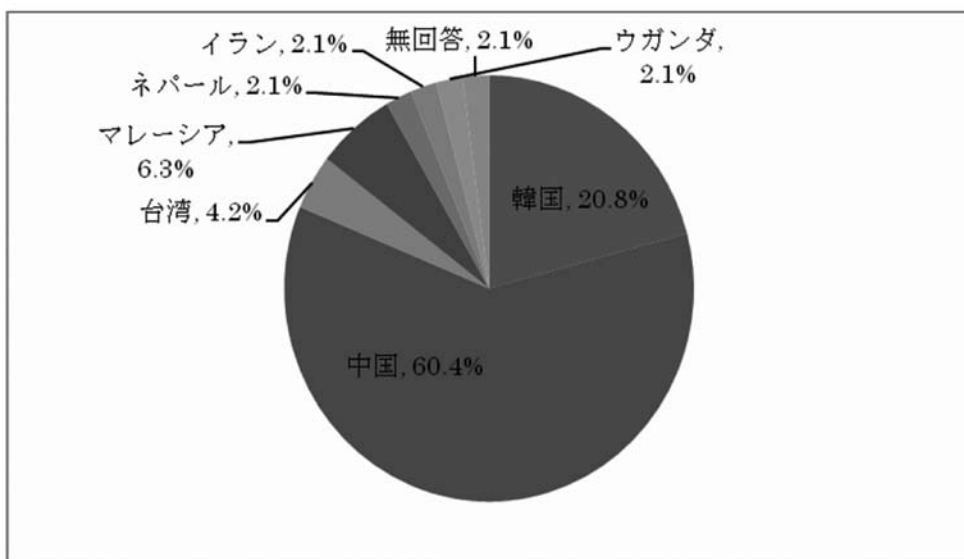
N=48

図2 調査対象者の年齢



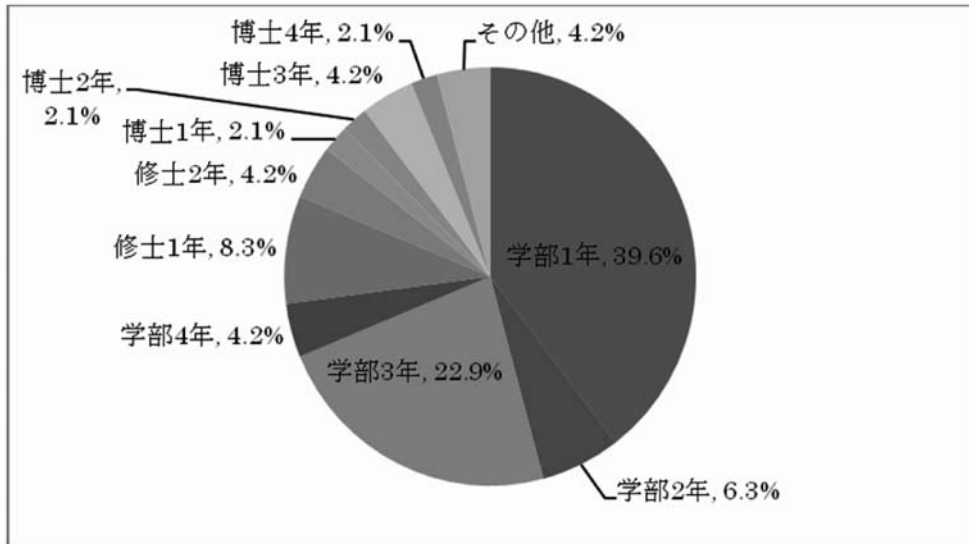
N=48

図3 調査対象者の性別



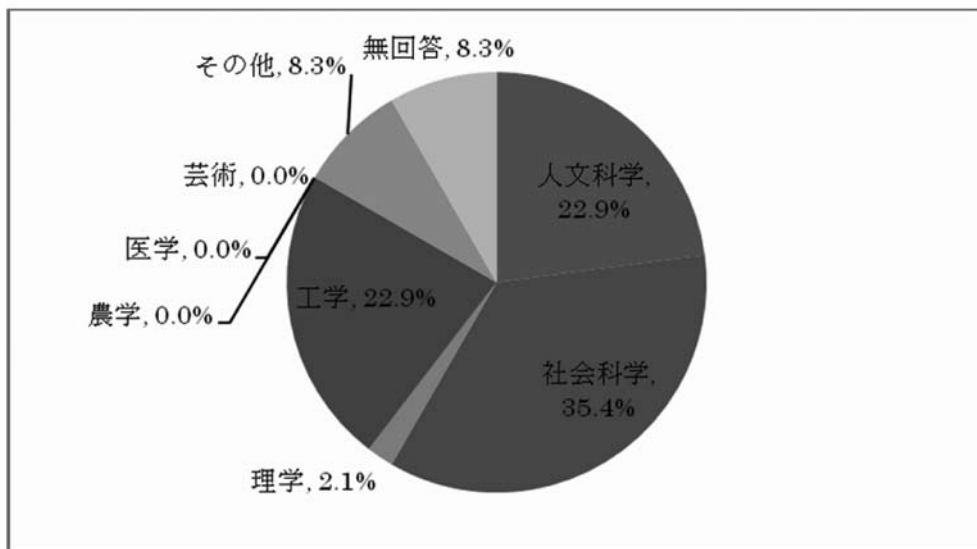
N=48

図4 調査対象者の出身国



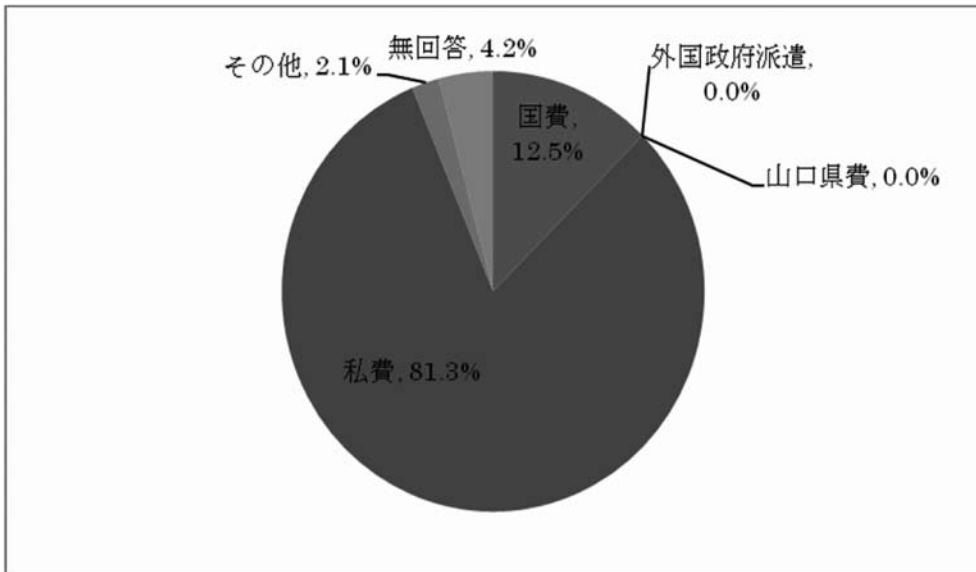
N=48

図5 調査対象者の在学段階



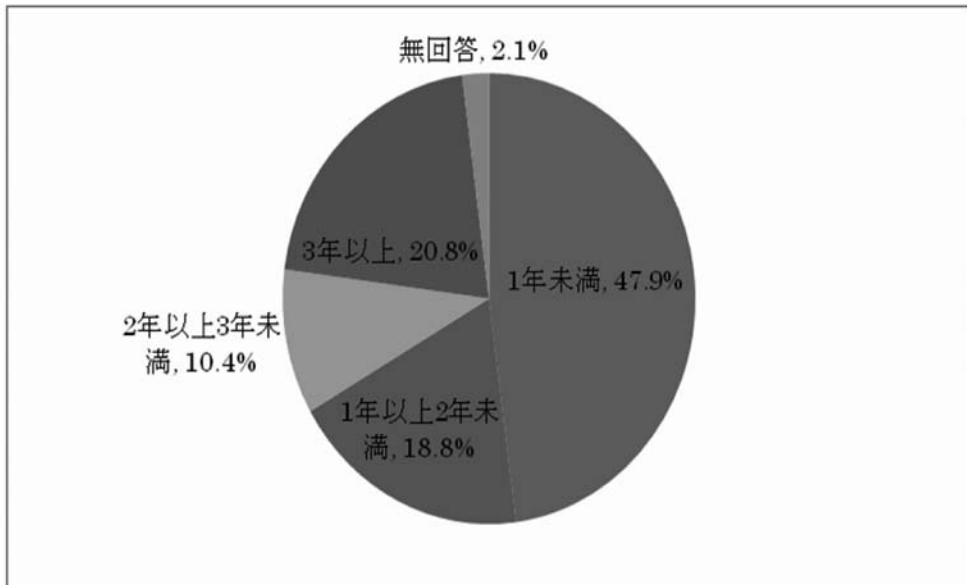
N=48

図6 調査対象者の専攻



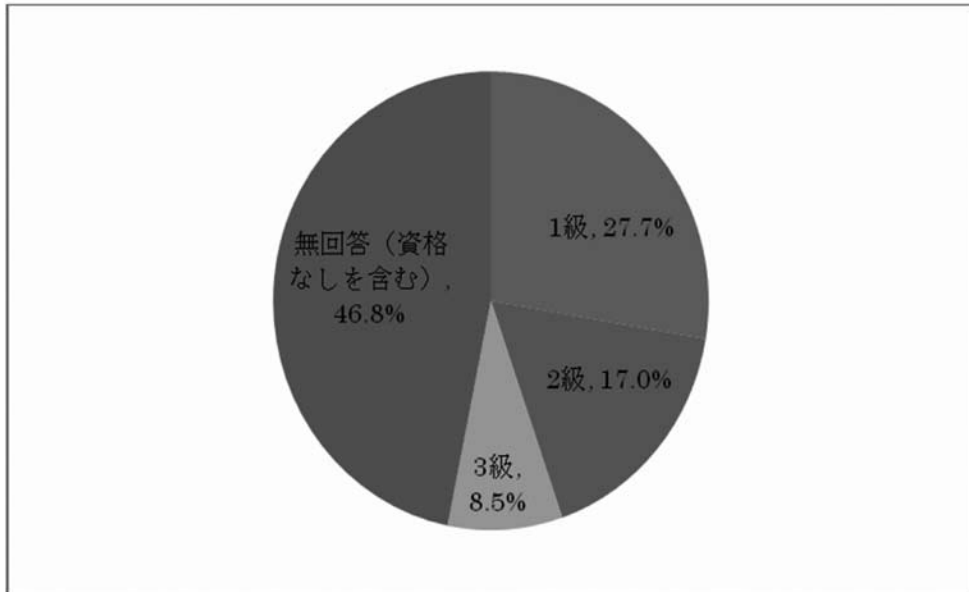
N=48

図7 調査対象者の学費



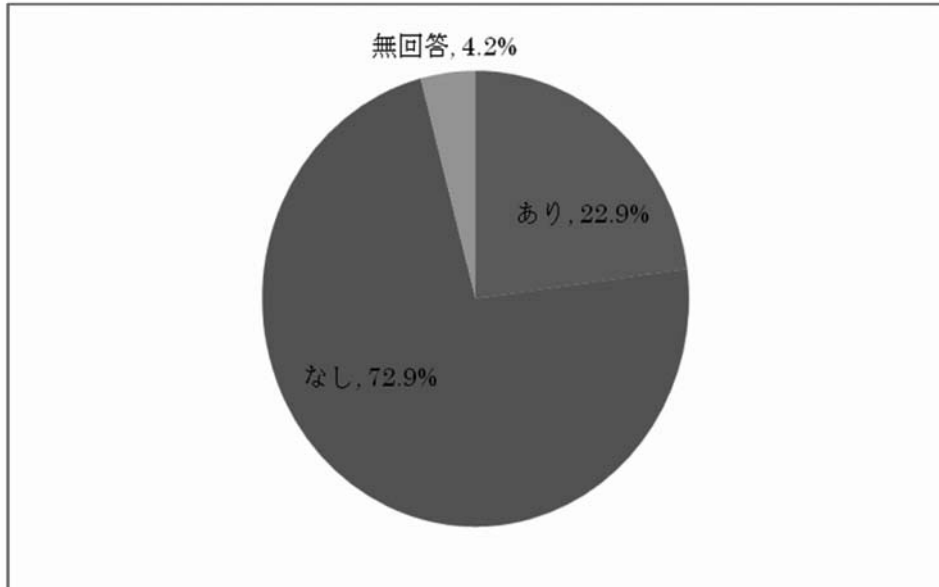
N=48

図8 調査対象者の日本での滞在年数



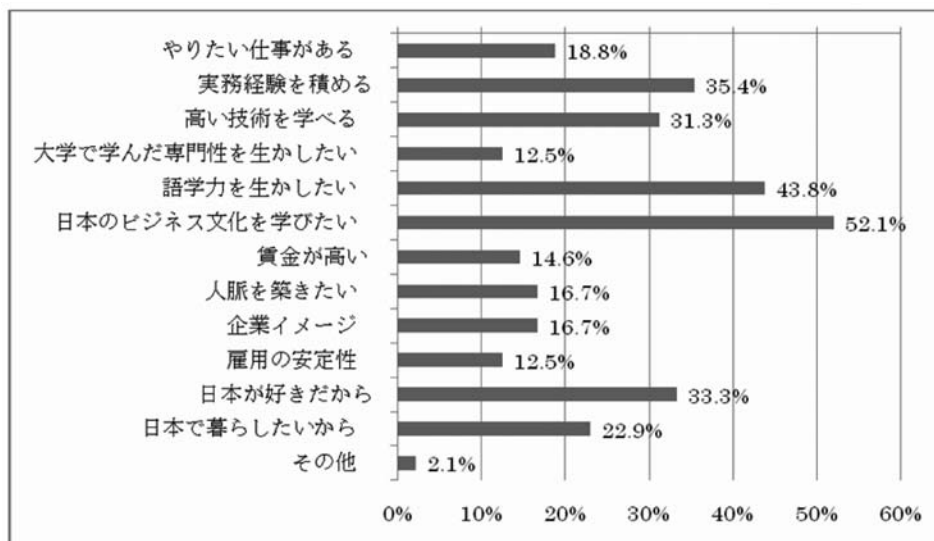
N=48

図9 調査対象者の日本語能力



N=48

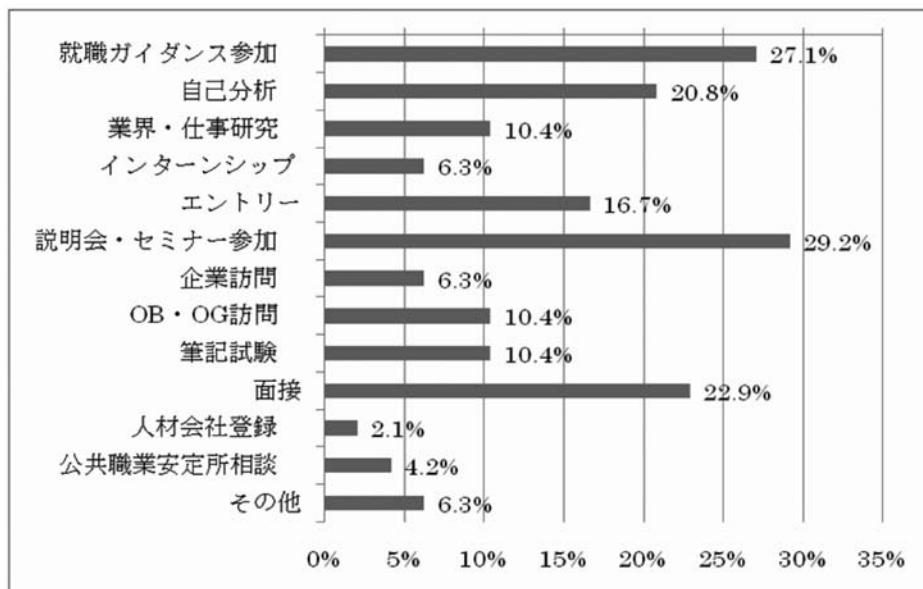
図10 調査対象者の母国での就労経験



N=48

図11 問1：日本で就職したい理由は？（複数回答可）

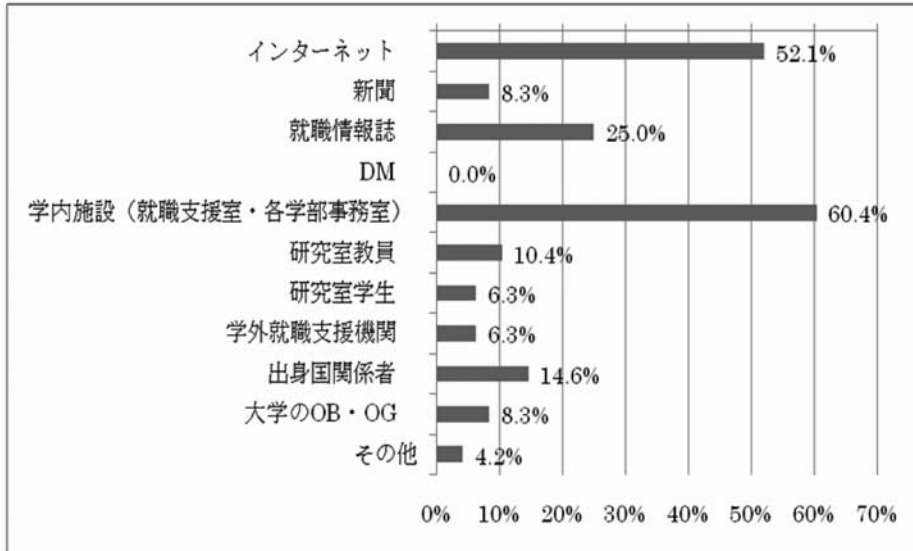
※その他：理由がない



N=48

図12 問2：これまでになどのような就職活動をしましたか？（複数回答可）

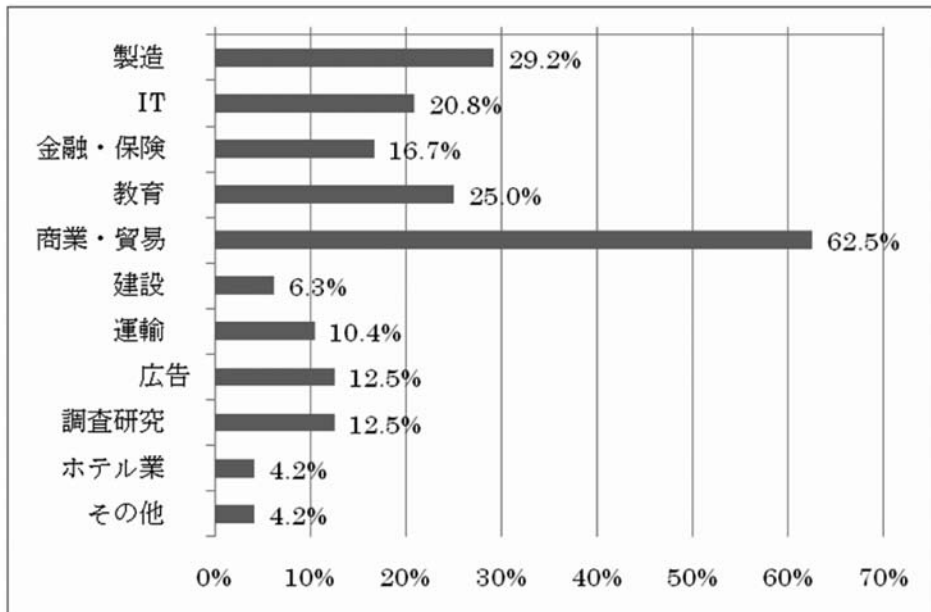
※その他：就職支援、まだなし



N=48

図13 問3：就職の情報は何から得ていますか？（主なもの3つ）

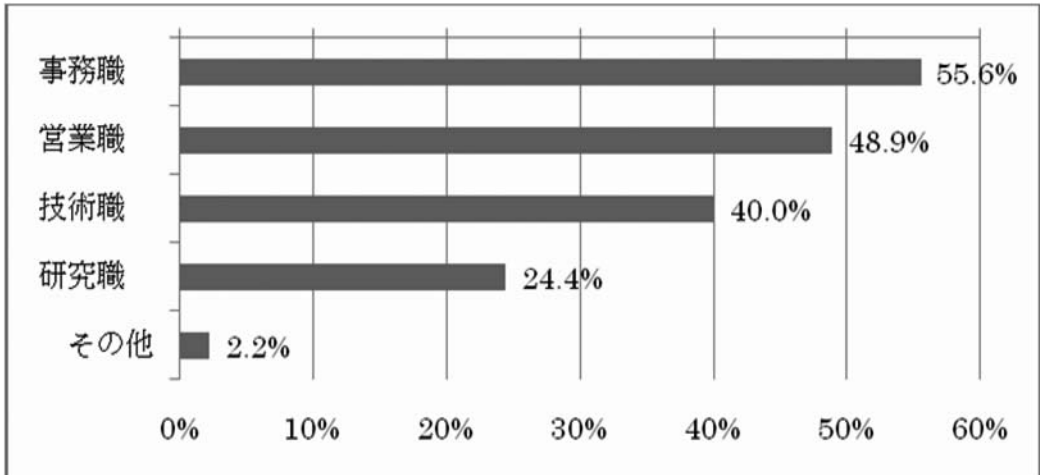
※その他：リクナビ、マイナビ、ともだち



N=48

図14 問4：希望する業種は？（複数回答可）

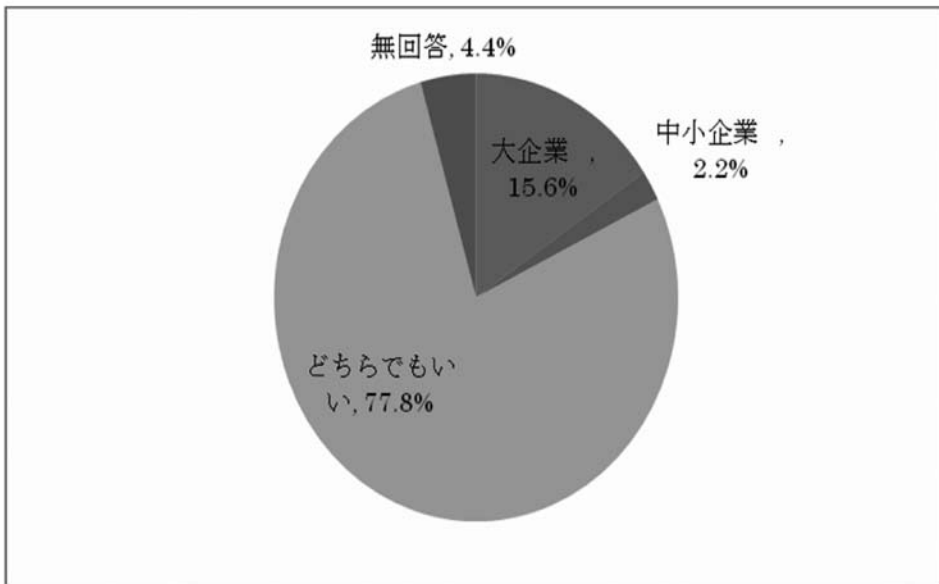
※その他：物流



N=45

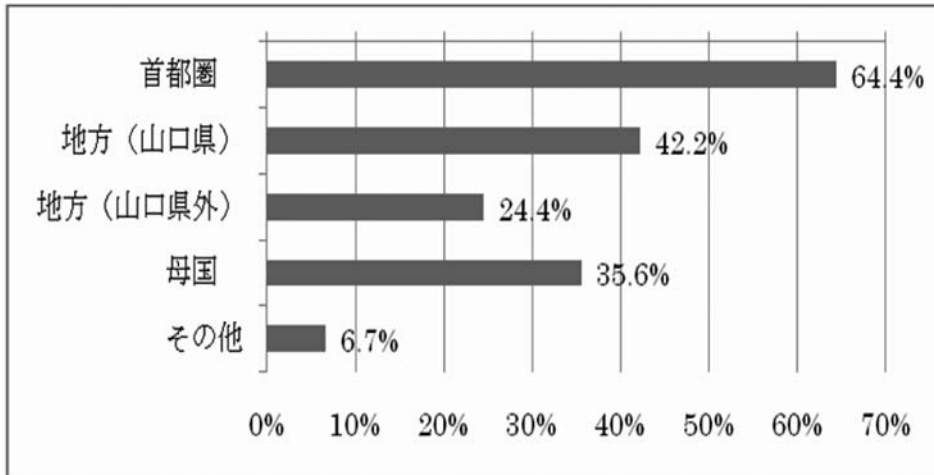
図15 問5：希望する職種は？（複数回答可）

※その他：開発職



N=45

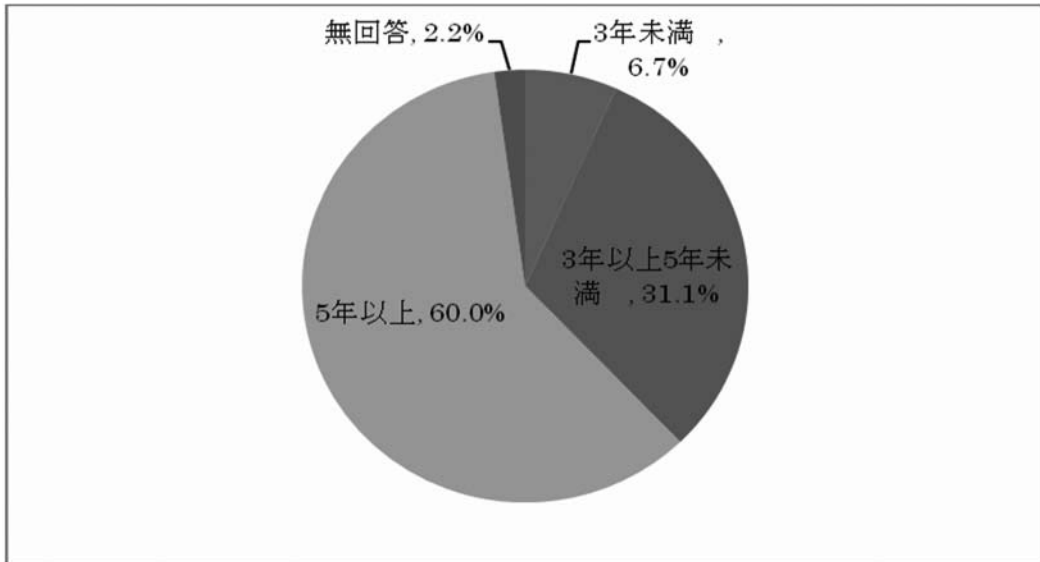
図16 問6：希望する就職先の規模は？



N=45

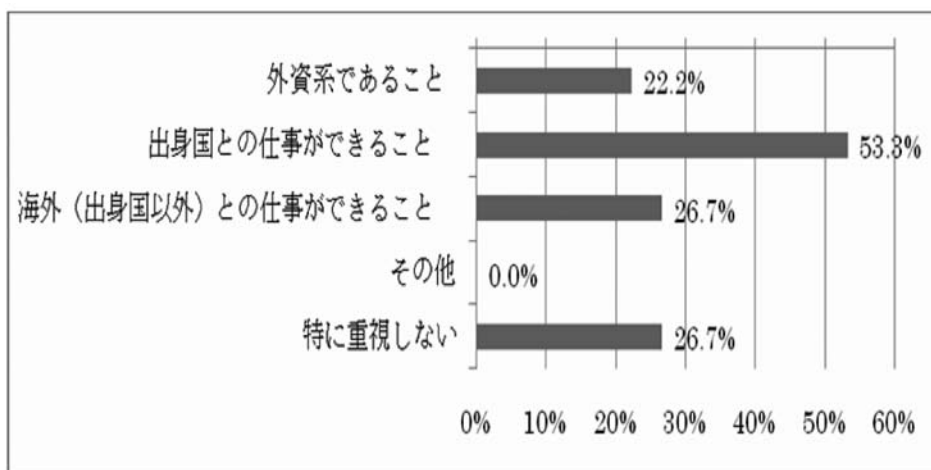
図17 問7：希望する勤務地は？（複数回答可）

※その他：海外、どちらでもいい、Any place in Japan

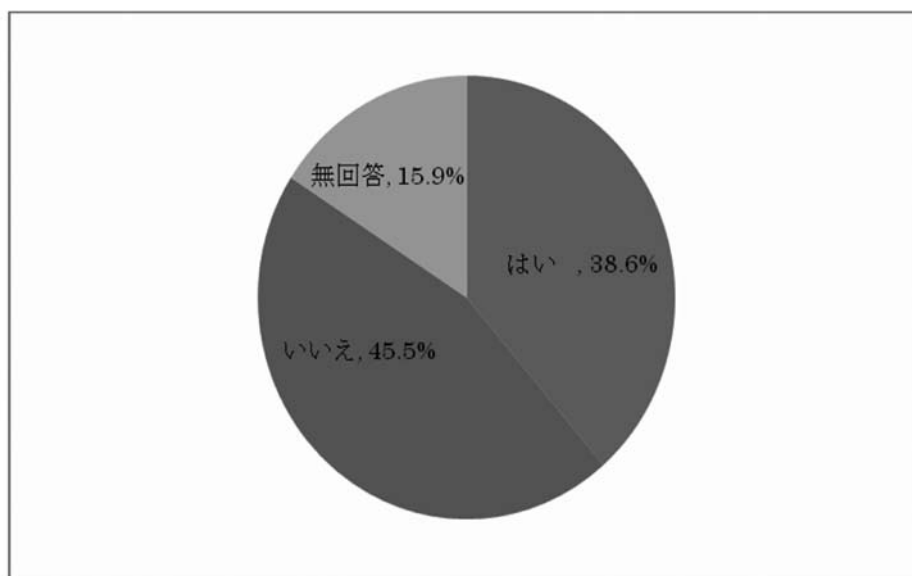


N=45

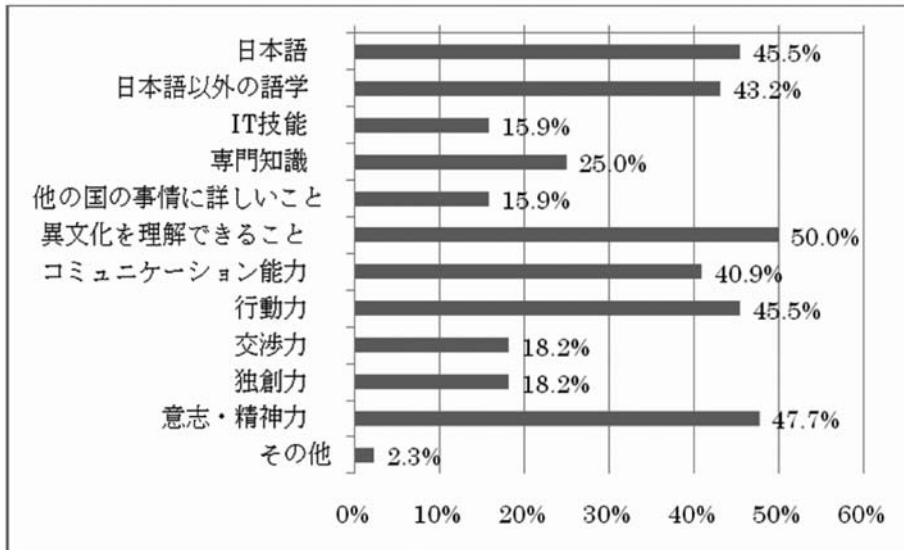
図18 問8：希望する就労期間は？



N=45 図19 問9：就職先と海外とのつながりを重視しますか？（複数回答可）

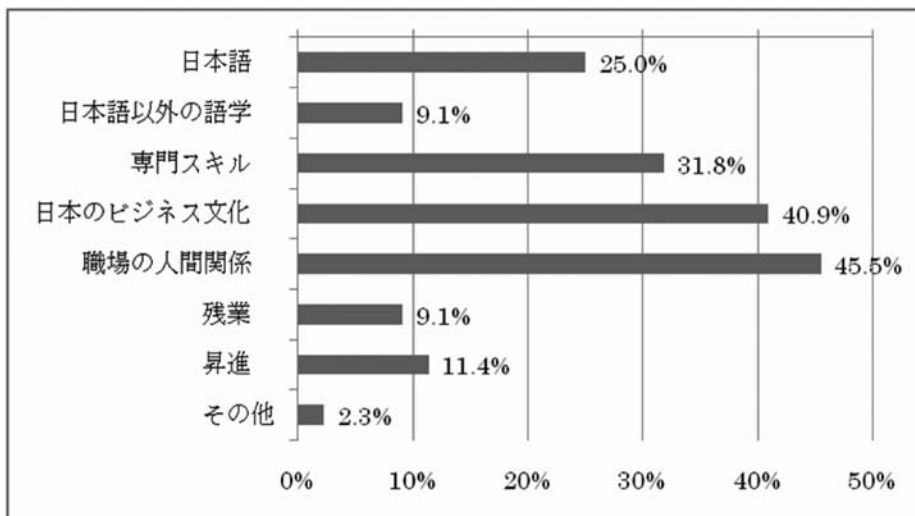


N=44 図20 問10：就職先ですでに外国人が雇用されていることを重視しますか？



N=44 図21 問11：日本で働く場合に自分の強みは何ですか？（複数回答可）

※その他：TOEIC、建築デザイン



N=44 図22 問12：日本で働く場合に不安なことは何ですか？（複数回答可）

※その他：ないです

問13. 日本での就職について留学前と留学後
でどのように考えが変わりましたか？

*以下の回答は、留学生の回答をそのまま転記した（編集段階での修正は一切なし）。

- ・留学前に日本で就職することは考えたことがなかった。
- ・専門知識だけを身に付けるのはとても不十分です。
- ・留学前には、日本語が簡単、就職も簡単と思ったが、実は、日本のいろんな習慣を分からないで、少し困っている。
- ・留学前、日本での就職はあまりむずかしくないと思いました。でも留学後、日本での就職の競争はきついと思います。
- ・留学前には、どうしても卒業の後、自国に帰りたいと思うが、でも、今、もう一回考えてみると、やっぱり3～5年ぐらい日本に働いた方が良くと思う。
- ・仕事を見つけるのは難しいです。
- ・留学前は卒業のあとで、すぐ帰国すると思います。でも、今そうじゃないと思います。日本へ来て、だんだん日本が好きになります。日本で働きたいです。
- ・留学前で大学に卒業したら、帰国すると思います。
- ・留学前は韓国で就職したかったんですけども、今は日本で就職したいのです。
- ・留学前全然考えられない。今はチャンスがあれば日本で就職してほしい。
- ・ほとんど変わってないです。留学前から日本の就職する目標を立ててしまったので。
- ・I had dream to get job in Japan after completing my study in Japan.
- ・特になし（6名）

問14. 日本での就職について就職活動前と現在でどのように考えが変わりましたか？

*以下の回答は、留学生の回答をそのまま転

記した（編集段階での修正は一切なし）。

- ・想像以上に難しかった。
- ・自身価値を見つけることは重要です。
- ・就活を通して、日本語の面とビジネス日本語の面でがんばる必要があると思っている。
- ・日本での就職した方が良くと思う。なぜなら、私は色々な仕事に関する経験を受けたいからだ。
- ・規則が難しい。
- ・母国の就職活動とは違うことを感じました。
- ・日本の会社がとてもいいです。
- ・現在はビジネス日本語がとても重要だと思います。就職活動前はビジネス日本語についてほとんど知りませんでした。
- ・日本の企業も留学生人材を必要としているのが分かりました。
- ・思った以上、日本での就職がむずかしい。
- ・今は日本で就職の意思が前に強くなる。
- ・就職競争ってかなり激しいと感じてきた。
- ・日本式の就職流れをまだ慣れてない。
- ・特になし（6名）

問15. 留学生の就職について日本の大学、企業、社会への要望を記述してください。

*以下の回答は、留学生の回答をそのまま転記した（編集段階での修正は一切なし）。

- ・定期留学生就職説明会を行う数を増していただければ、もっとよいかと思っています。
- ・もし、留学生向けの就職の機会があったら、おしらせていただければ、いいと思う。
- ・面接を便利にさせていただきたいけど。
- ・企業の求人情報をもっと大学に入れていただきたいと思う。
- ・企業の求人情報を大学に入りやすいにさせていただきたいです。

- ・経済類企業に就職したい。
- ・機会を留学生にあげてください。
- ・日本の大学でビジネス日本語が勉強できる希望はあります。日本の大学がその方面についていろいろ教えてくださいと希望しています。
- ・外国人が日本で就職する場合を考えて、日本のビジネス文化とかを教育してほしい。
- ・留学生に対しての就活とかセミナーが多くなる。
- ・願いたいのが、説明会やセミナーの時も第一面談など行ってほしいです。毎度、東京・大阪・各地まで通って本当に留学生に大変だと思った。経済力・学業面など本当に困っている。
- ・For university, I expect to get valuable information regarding employment specially targeted for international students.
- ・特になし（3名）

今後の展望

平成21年度に2回実施した「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」は、課題点は幾つか残るものの、全体的に成功であったと考える。参加者総数は2回の合計で255名であり、単独の大学が開催した外国人留学生向け就職説明会としては、予想を遥かに上回る数であった。また、2回のフェスタを通して、3名の就職内定者が出たことは、何よりの朗報であった。加えて、本年度の山口大学留学生の日本企業への就職者は、7名に達し、例年の1～2名程度を大きく上回った。（現在、2社から求人があり、更なる内定者が出

ることも期待できる。）

「第2回留学生就職支援フェスタ・イン・山口」にて実施した「意見交換会」には、山口県内の高等教育機関の関係者、企業の人事関係者が多数集い、活発な意見交換がなされた。今後のフェスタの継続・発展にとって、大変有意義な試みとなった。

平成22年度には、「第3回留学生就職支援フェスタ・イン・山口」を6月に開催予定である。さらに、後期、「留学生のための日本企業文化理解」なる講義を開催する。1社1授業を担当してもらい、15企業の授業を受講すれば、日本企業の全体像が見えてくる内容を整えていく。そのために、映画製作会社、レコード会社、出版社、放送局、新聞社といった、地方の大学が招聘しにくい業種からも参加を募る。そして、ハードとソフト両面の「ものづくり国家・日本」の実像を留学生に伝える。この授業を受講した留学生は、アンケート結果に見られる「日本企業文化への不安」を大幅に解消していくことが期待できる。それは、ひいては、留学生の「就活力」向上につながるであろう。

加えて、アンケートにおいて留学生が要望している「ビジネス日本語教育」コースの開設を早急に実現していかなければならない。それが実現すれば、留学生のための就職説明会、日本企業文化理解授業、ビジネス日本語教育の三本柱が山口大学の留学生教育に出揃うこととなり、留学生の就職支援及び教育体制が一応の完成を見ることとなる。

（留学生センター 教授）